

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 寿々花の家)

事業所番号	0673000659		
法人名	株式会社 狩川佐藤組		
事業所名	グループホーム やまゆり		
所在地	山形県東田川郡庄内町狩川字小縄3-3		
自己評価作成日	平成 24年 12月 20日	開設年月日	平成 17年 6月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の時代背景を考えた「家庭的な雰囲気」を重視し、日常生活の中に自らの役割を作るケアを行っています。これまで自宅で毎日行ってきた調理や洗濯・掃除など、専門の職員と利用者様が一緒に行うことを原則に、画一的なスケジュールやルールに縛られた環境ではなく、ひとりひとりにあった心地よい生活リズムのある「日常生活」をご提供いたしております。また、介護事業部理念の「考える介護」の下、ご利用者様の笑顔にたくさん出会える様に、職員も楽しみながらも創意工夫を行う事を忘れず、日々の仕事に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 25年 3月 5日	評価結果決定日	平成 25年 3月 30日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス 「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業部・ユニット理念については、ホール内の1番、目立つスペースへ掲示し、意識付けを行っている。また利用者が読み上げる機会も多く、職員が現在取り組んでいる事を明確化している為、実践にも繋げ易い状況である。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回、地域参加型のやまゆり祭を行っている。日頃は散歩や買い物を通し、近隣の方や一般の方とのふれあいの機会も提供しており、率先し挨拶を行う事で交流を深めている。やまゆり祭の広報に、地域の商店より協力いただく場合もある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症の理解を深めて頂けるよう働きかけを行なっている。家族に対しては、手紙や電話を通じ、認知症の症状について定期的に伝える機会を設けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催とし、各ユニットが交互に主体となり、会議を行っている。また、委員の方や地域の方からの意見については、各リーダーを通してスタッフへ伝達している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、事務手続きに限らず、分からない事等の相談・協力といったことが出来る体制が出来ている。運営推進会議を通じて、当ユニットの取組みも伝えている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	非常口のみ常時施錠を行っているが、玄関はセンサーを利用し、音が出る仕組みを取り入れている。外に出たがる利用者もいる為、一緒についていくことが出来る場合は、できる限り希望に沿った対応を心がけているが、手伝いや話し相手など、他の活動に興味を持っていただくように促す場合もある。身体抑制については正しく理解し、全行おうことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通じ、管理者より虐待防止法について学んだ事はありませんが、全職員が理解するまでには至っていない。利用者に対しては入浴時のボディチェックの徹底と定期的な体重測定に努めている。身体的虐待だけでなく、言葉使い等の精神的虐待にも注意を図っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣のユニットで福祉権利擁護事業を利用している利用者もいるが、職員の中には事業に関わったことのないものもあり、まだまだ制度の理解が足りないと思っている。ユニットでの勉強会の必要性は感じるが、実施までには至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接で伺った事や、本人・家族が施設を見学する際などに、説明する機会を設け、不安や疑問の解消に努めている。説明だけでなく、理解を頂けたかどうか確認している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月第4週目に利用者会議を開催しており、その際に意見を聞く機会を設けている。家族には、面会時や月末の手紙や電話での連絡等を通じ、意見や要望を伺い、反映出来る様にしている。		
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3週目に職員会議を設け、全員出席を基本とする為に、希望休等の無い日で調整している。会議には毎回管理者からも出席して頂き、意見交換・相談の場を設けている。また、特別な場を設けなくとも、日頃から相談できる環境がある。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望も考慮して頂く事が多く、各自、休み希望を通しリフレッシュする事が出来ている。資格取得者には手当を頂く事もでき、資格取得の為の意欲作りもあり、スタッフのやる気に繋がる様にほめるミーティングも取り入れている。		
13	(7)	職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧する事で、自分で行きたい研修を選ぶ事が出来る様になっている。新人には3ヶ月を目途とした新人ミーティングを行う事で情報やお互いの思いを共有できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年1回の交換研修への参加や受け入れ等を通し、直接他施設の方とコミュニケーションを得る機会が設けられている。また、外部の研修への参加も交流の機会となっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には生活暦の把握や入居後にはセンター方式C・Dシートを活用し、日頃の会話の中からも不安や悩み・要望等を察知できるように努めている。また、定期的なカンファレンスを設ける事で情報共有にも取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや要望についても、介護計画へ反映する事を心がけている。家族からの情報や利用者に対する話などは記録以外にも申し送りノートを活用し伝達している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談を通し直接話を伺う事で、ホームに望んでいる事や続けたいと思っている事等をしっかり情報収集している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな仕事でも職員のみで行う事の無いように働きかけを行い、お互い協力し合える環境を作っている。また「自分だったら…」と置き換えながら、今望んでいる事や対応方法を見つける様にしている。職員が楽しむ事を忘れずに、利用者にも楽しんで頂ける様に努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談を行い合える環境作りに努めているが、遠方の家族の協力が得られにくいという現状もある。面会の際などに、利用者の様子を伝えると共に、家族からの協力も頂きながら、運営をしている。		
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に足を運び易い環境作りを行い、訪問があった場合には、すぐに対応するように心がけている。家族や知人の方が遠のいて行かない様な働きかけを行える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しない働きかけを行っている。歌などの個々の得意とする事を披露できる機会を作り、お互いが支え合える関係を作っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院や他施設への入所の為にサービスの利用を終了する場合は、利用者の情報提供を行っている。また、家族には、退居後も相談や不明な点の問い合わせ等、いつでも行っている旨を伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式C・Dシートを活用し、課題や問題点を探している。毎日1名ずつ行うカンファレンスを通し、利用者の可能性も探しており、最近では、日々の中で気が付くリスクについても話し合う機会も設けている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人台帳を確認し、生活暦や要望等を情報収集している。また会話の中に隠れている馴染みの事なども見逃さず、記録へ残すようにしているが、活用までは至らない事もある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式C・Dシートの活用を行い、日々の課題や現介護計画に沿った本人の状態観察へ努めている。面会の際は、家族からも話を伺い、自宅にいた時の過ごし方等も参考にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、事前面接を基にホームで生活する事で考えられる課題を中心に作成しているが、6ヶ月毎の見直しの際には、センター方式Cシートの本人の言葉を聞き取り調査し、直接介護計画に盛り込む等、各居室担当にも協力頂き作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録の記入に努めている。ケース記録には、サービス内容の実施の有無がすぐに分かる様に、×の記入も設けてはいるが、×の部分がなぜ×なのかまでの具体的な記録には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや買い物先では、ホームの利用者という事を理解して頂いており、店員の方には待つて頂くなど、利用者のペースに合わせて対応をして頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から月1回往診に来て頂き、利用者の健康についての相談や薬についての確認を行っている。他の医療機関を受診の方には、状態の変化に合わせて、家族と相談のもと主治医へ情報提供をしている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の皆様の様子で気がかりな事にはすぐに看護職員へ連絡し、指示を仰いでいる。夜勤帯においても、緊急時や発熱・転倒等指示を仰ぎたい場合には電話連絡を取り合い、状況に合わせた対応が出来る様に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、定期的に家族とも連絡を取り合い、利用者の現在の状態について確認している。また、必要時は病院関係者の方からも情報を頂き、今後の事について相談させて頂く場合もある。退院後の受け入れ可能状態がどこまでであるかも明確にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては行っていない為、状態に応じて、家族や主治医と今後の方針について相談させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿い緊急時に対応を行っており、普段から利用者の様子について気にかかる事は看護職員へ常時相談を行い、急変時に備えている。緊急連絡表は半年毎、見直しを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施しており、確実に利用者が避難できるよう訓練を行なっている。また、地震発生時の行動基準を作成し、全職員が携帯している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬し、敬う存在である事を常に意識し、その方の人格を尊重出来る様な声掛けや関わりを持っている。その時の状況や背景にしっかり目を向けた関わりを持つ様に心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式Cシートを利用し、本人の思いや希望を伺う機会を得ている。他にも日課活動を通じてやりたい事が見つかる様に、様々な選択肢を用意し自己決定を促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課活動にを強制的に依頼するのではなく、本人が好んでいる物や適している活動を考慮し、働きかけに努めている。尚、本人から進んで行うといった仕草があった場合には、希望に沿って応援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際には一緒に行き、本人から好きな洋服を選んで頂くなど、本人が好む色やデザイン等の把握に努めている。毎回同じ身だしなみを希望する方には、声掛けも行い様々な衣類を着用出来る様に努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳等、利用者と協力して進めている。職員も一緒に食事を摂る事を心がけ「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶も、利用者にお願ひし、楽しい食事時間となる様心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本とし、季節のメニューも取り入れている。過去のメニューを活用した年間メニュー表を作成し、状況に合わせて内容を変更しながら対応している。苦手食材の代替えや水分チェック等も普段から行い、栄養摂取状況も確認している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が付き添いのもと全員の口腔ケアにあたっており、夜間は洗浄剤を使用し衛生にも努めている。毎食前・おやつ前の手洗いうがいの徹底にも努めている。			
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンやその仕草を把握し、排泄の自立を促しています。必要時には、時間に合わせたトイレ誘導やオムツ交換等も行っていきます。			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。加えて、日課活動を通し、しっかりと体を動かし腸を動かす事も意識している。			
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間3回の入浴を基本としながらも、要望や拒否があった場合には、状況に合わせて回数の調整や入浴日の変更も行っている。個室空間を作りごゆっくりと入浴できる環境にも配慮している。季節によりみかん風呂やバラ風呂等も行っている。			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡時間は1時間程度とし、なるべく離床時間を長く設け活動的に過ごす頂き、夜間ゆっくりと休める環境に努めている。気持ちよく寝て頂けるよう、その人にあった就寝準備をきちんと行っている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用い、いつでも確認出来る様にしています。また医療安全委員が都度チェック表の見直しに努め最新の状態にしています。内服も確認表をもとに4度のチェックを重ね、1年半以上、内服ミスを防いでいます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前の調査や生活歴・日頃の様子から馴染みの事柄や得意と思われる事を探し実施できるようにしている。その方に任せる事が出来る仕事内容も見つけ、役割を持って日課活動に取り組んで頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望を考慮して散歩や買い物を取り入れ、気分転換を図っている。1週間1回の大手スーパーへの買い物の際は、4名の利用者と一緒にいき、都度同行して頂く利用者を変え、全員が気分転換出来る様に努めている。公用車の使用が可能であれば、全員での外出も定期的に行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員が預かり金とし、現金は事務所内保管としており、購入希望がある場合には、出来る限り要望に答えられるようにしている。支払いについては、主に職員が行っており、利用者が直接現金を手にする機会は減っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙を出せる様に手配している。また家族から様子についての電話があった場合も、なるべく本人と変わり直接お話が出る機会を設けている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは1日1回全員で掃除で行い、共用空間の衛生にも努めている。最近は1日3回の換気も必ず行い、風邪や感染症の媒介にならない様に努めている。トイレには使用の有無の札を設ける事で、鍵の閉め忘れ等にも対応できる状態を作っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の居室をはじめ、テレビスペースや他ユニットへも自由に行き来する事が出来る為、利用者が望む場所で過ごす事が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、使い慣れた布団をはじめ、愛着のある衣類等を持参頂いている。また利用者に合わせ、仏壇やぬいぐるみ・手作業用の道具等、自宅で過ごしていた状態が維持出来る様に家族からも協力頂き準備している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居室配置はホール廊下に対し一直線上に設けられているため、非常時や緊急時には対応し易い状況となっている。必要箇所へ、手すりやナースコール等の設置があり、すぐに対応し易い状況である。	/	/